

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192100095		
法人名	社会福祉法人常盤会		
事業所名	グループホームときわ		
所在地	埼玉県朝霞市大字宮戸1614		
自己評価作成日	平成30年3月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	平成30年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>法人で運営している保育所との連携があり、園児さんとの交流がある。施設も新しく機械浴、大浴槽など幅広くご利用できる。ナースの人員配置があり、医療面においても力を入れている。内科、歯科と訪問診療を定期的に行っている。(月2回ずつ。)</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>●レクリエーションの月間計画が策定されるなど利用者が楽しめる機会を意識的につくっています。車両を使用した遠出、法人内の保育園の行き来など恵まれた環境を活かした取り組みがなされています。</p> <p>●広いスペースを利用し、両ユニットが集まり、誕生会・運動会などのレクリエーションが楽しめます。また、庭・中庭等外気浴を楽しめる空間など随一の環境を有しています。</p> <p>●水害時の対策と計画が策定されており、避難訓練を実施しています。被災時には法人内他事業所への避難を想定するなど万一の事態に備えています。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職毎や年に1度研修において周知し、実践に繋げている。	パンフレット等への掲載を通して理念の周知に努めている。職員間のコミュニケーションが図れており、協力しあい・負担を軽減しあいながら支援を進めている。	認知症への理解については終わりではなく、職員に発信し続けることが重要であるとの認識をもっている。職員同士が留意し合える環境の構築が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との連携がまだ足りない。近隣住民や利用者家族との繋がりや行事も今後増やしていきたい。	ボランティアサークルの来訪など地域の方々との交流がなされている。事業所内のホールを活かし今後も地域への貢献にあたる意向をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ときわカフェを通じてこれからも努力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議簿を作成しているが、署名人の印が押せていない。	民生委員、行政、地域包括支援センター等の方々が参加し、定期開催がなされている。地域交流の場として貴重な機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運進や日頃気になる事や確認事項は都度、担当者と連絡を取り合っている。	特に地域包括支援センターとは密なる連携に努め、認知症サポーターステップアップ講座や勉強会への協力がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送りや研修を通し実践に努めている。	利用者の意思を尊重した支援および身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。チェックシートの実施等振り返りの機会を設けている。	言葉による制止など今後も職員への周知と徹底に努める意向をもっている。研修等の指導を通して研鑽を図ることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送りや研修を通し実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、ご利用者様の該当し得るものの情報や、制度を学び、支援に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず、口頭、書面にて確認を取るようになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今後より多くそのような機会を増やし、行事などの取り組みにもご参加頂けるよう努力したい。	家族の面会時にはゆっくりと話ができるよう配慮に努めている。またICTの導入により、簡単に日々の写真を見てもらえることができる仕組みが作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回はリーダー会議を行い、職員意見についてはその都度確認している。	管理者によるリーダー会議が開催されており、検討結果が職員に伝えられている。毎朝のミーティングにより情報共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適正を基準に環境整備・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも個々に参加出来る様、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ときわカフェや研修会など、外部の職員との交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調、面会を含めまずは信頼関係の構築に努めている。無理強いせず、ご本人のペースに合わせる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様やご本人様の要望に沿って、ケアプランの作成を行いケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望と実際の見極めについても、すべて踏まえた上、当施設で可能な限りを提供しご納得頂いた上でサービスを行う様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性を活かした援助やご本人の意思、関係性を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今後はより、ご家族様とともにという姿勢を大切にしていきたいと思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意思を尊重し、関係継続には努めている。環境が変わる事でご理解の難しい事由についても説明、支援に努められる様にする。	法人内の保育園とは行き来により親睦が深められている。また入居前からの習慣を活かし、清掃・洗濯などを継続して行えるようサポートに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の活動や食事、生活を通じご利用者様同士の関係を大切にしている。お手伝いや会話も職員と一緒にすることで幅を広げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を設置し、確認事項やご本人との意向の把握に努めている。	なるべく利用者に対して声を掛け、コミュニケーションを図りながら意向を確認している。生活歴の把握・利用者の立場に立った考察をし、支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネやワーカーとの連携を大切に本人やそのご家族様だけの意見にならない様、客観的に見られる方の意見も大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かなサインにも気付けるよう、日ごろの関わりを大切に、違和感を見落とさない様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングについても、柔軟に対応できるよう努めている。常日頃から職員間においても意見、アイデアを検討し、その都度対応出来る様にしている。	サービス担当者会議の開催、家族・職員からの意見集約によりケアプランの策定がなされている。ケアプランを意識し、日々の支援と記録に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り表を活用し、細かな情報や実践記録においてもその都度作成し、活用に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ある程度の制限は必要であるが、その都度検討し、改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後もより多く地域資源の活用に努められる様努力したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意思を踏まえ、適宜必要な医療連携に努めている。	協力医療機関による月に2回の往診がなされている。往診時には職員間で検討したことを伝え、指示を仰ぎながら利用者の健康増進に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃よりラウンドを行い、個々の状態の把握に努め、その都度必要な処置や意見を求められた際にも適宜支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の収集に努め、その都度実調を行い、病院側との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時にも必ず確認させていただく。グループホームにおいて、お口から栄養摂取できなくなると、難しいとお伝えさせて頂き、各連携先との相談を検討して頂く。	ホームでできる支援については契約時に説明にあたっている。重度化に伴い、医師と家族を交えて検討し、最善の選択ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より、看護師との連携を深め、緊急時について等予め予想できる範囲のものは確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今後、地域との関係性を深め、行えるよう努める。	水害時の対策と計画が策定されており、避難訓練を実施している。被災時には法人内他事業所への避難を想定するなど万一の事態に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族様が見ていても、見ていなくても変わらない対応をできるように努めている。	利用者が心地よく感じられる接遇となるよう配慮に努めている。利用者同士の関係性が良好となるよう職員が間に入り、支援にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、自己決定を大切にしているがご本人様の希望の表出が難しい場合は総合的に判断を出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れやリズムを大切に生活を出来る様努めている。余暇の過ごし方など、希望も踏まえ、行えるよう今後も務める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に清潔であることが前提に偏った服にならない様時には勧めたり提供させて頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、出来る事に制限を置かず行えばよいが実際は出来る事のみ行って頂いている。	食器洗いや盛り付けなどできることにて食事作りに参加してもらっている。おやつ作りなど皆で楽しむ機会もつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分の摂取量はその都度記録し、基本的に一日のトータル摂取量を目安に健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方については毎食職員が行う。また、必要性については歯科往診にて判断させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人に応じ、その状況の把握に努め、その都度検討し、改善している。	タブレットによるアプリの活用により日々の記録がなされている。利用者ごとの間隔を意識し、なるべくトイレでの排せつとなるよう自立支援にあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にセンナ茶や排尿には克蘭ベリージュースを提供している。個々人に応じて便秘薬も処方頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さまの気分に合わせて無理強いせず、行っている。季節に合わせてしょうぶ湯やゆず湯などもお楽しみいただいている。	個浴槽とは別に機械浴と大浴槽があり、重度化への対応・季節湯を楽しめる恵まれた環境を有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人に合わせ快適にお過ごし出来る様、衣服、温度、湿度の調節を行っている。また、体位交換等必要な方についても適宜行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携し、その方にあつたお薬の調整をしている。副作用についても新しいお薬の場合はその都度周知し、観察を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様との普段の会話や、ご家族との会話から、その方に合った配慮点を模索し、生活の中でより多く取り入れる様心がけている。日課としてお手伝い頂ける方には掃除、洗濯、食事等のお手伝いをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクの中でも外出をメインにしたものや、普段の生活の中、個人のケアプランに反映し、行えるよう心掛けている。」	レクリエーションの月間計画が策定されるなど利用者が楽しめる機会を意識的につくっている。車両の活用・庭や中庭での外気浴など恵まれた環境を活かした取り組みがなされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の管理は行っていない。立替金として請求させて頂いている。個人で希望されるものについてはその都度、ご家族等に相談し、ご用意させて頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、その都度検討し、無理のない程度であれば、ご家族との同意のもと行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	製作物や日常の活動の様子(写真等)を掲示し、季節感を取り入れている。掃除に関しても定時だけでなく、清潔を保てるよう心掛けている。	有する広いスペースを利用し、両ユニットが集まり、誕生会・運動会などのレクリエーションや保育園児との交流がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常にご利用者様同士の組み合わせに配慮し、配置換えや声掛け、関係性に気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた物を置かせて頂いたり、居室内の配置もご家族との相談に応じて行っている。	仲の良い利用者同士が居室を行き来するなどグループホームらしい環境が形成されている。居室ではテレビやラジオを楽しむなど自由な時間が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の残存能力や関係性に配慮した生活空間を意識し、職員間でも常に情報を共有できる環境を目指している。日常の中の観察を深め、普段と違うという違和感を大切に出来る様、心がけている。		